

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520040

研究課題名(和文)近代日本哲学の紹介書出版に向けた日仏共同研究

研究課題名(英文) French-Japanese Collaboration to publish an Introduction to Modern Japanese Philosophy

研究代表者

上原 麻有子 (UEHARA, Mayuko)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：40465373

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題においては、翻訳と哲学は、類似の実践行為であるという立場、つまり「翻訳哲学」の立場に立ち、日本哲学をフランス語によって論じ、紹介した。フランス語圏の研究者との共同研究により、ワークショップを開催し、また世界哲学会でパネル発表を行った。成果としてPhilosopher la traduction/Philosophizing Translationと題するフランス語と英語の論集の出版を企画し、その編集をほぼ終えることができた。

研究成果の概要(英文)：During this research period, I introduced Japanese philosophy in French language by arguing from the standpoint of “philosophy of translation”, that is to say, from the standpoint that translation and philosophy are similar practical activities. I held workshops through joint research with francophone researchers and gave panel presentations at the World Congress of Philosophy. As a result, I planned to publish “Philosopher la traduction/Philosophizing Translation”, a collection of articles in French and English, which I have almost finished editing.

研究分野：日本哲学、翻訳学

キーワード：翻訳哲学 日本哲学 比較思想 言語哲学 京都学派 西周

1. 研究開始当初の背景

(1) フランスにおける近代日本哲学の受容が遅れている現状：フランスでは、近代日本哲学は、「日本学」という領域に含まれるが、そのうち最も研究が遅れている分野の一つである。ごく一部の日本学者には日本哲学の積極的な受容が見られる。また、近代日本哲学を研究テーマに選ぶ大学院生もここ数年、少数ながら増加傾向にあるが、フランス語による、近代日本の哲学の翻訳出版数、紹介のための論文集・研究書数は限られており、その担い手の多くは、フランス語圏のカナダ人、ベルギー人、そして日本人である。フランスの大学・研究機関には日本哲学を専門とし指導するフランス人教授はいないのが現状で、若手研究者を育てることは難しい。また、日本語を習得していない研究者には、西洋哲学を基盤として生まれた明治以降の「哲学」の基礎知識を得る機会もほぼ閉ざされている。

2) 「翻訳と近代日本哲学の接点」の成果の発展：「翻訳と近代日本哲学の接点」は、西田哲学の研究を深める中で得た、研究代表者にとっては一つの研究結果としての課題である。研究代表者は、翻訳学における「翻訳哲学」という考え方(翻訳には反省的自意識が必要で、これは哲学的行為にほかならない)に影響を受け、独自の論理と体系をもつ西田の哲学は、翻訳過程を経て構築されたものだとの見解を示した。そこで「翻訳と近代日本哲学の接点」を課題とし、さらに哲学の翻訳学研究のための三つのアプローチを提示した A 西洋哲学用語の漢語翻訳、B 「哲学的文法」の創造と言文一致、C 西洋論理の解釈と同化。

2. 研究の目的

本研究は、近代日本哲学をフランス語で紹介するために、準備作業として、フランス語圏の研究者との共同研究により、その発信の内容と方法を検討すると同時に、翻訳学的問題を掘り下げることが目的とする。特に、翻訳を言語変換という単なる手段ではなく、哲学的思索の一部であり、新たな哲学発信の原動力ともなる行為および結果であると考え研究する点に、本研究の特徴がある。また、この翻訳学の観点に基づいて、フランスあるいはフランス語圏の思想、文化、社会への近代日本哲学の受容の問題も検討し、日仏思想の比較研究も試みたい。

3. 研究の方法

主にフランス語圏地域の研究者と、フランス語/日本語による共同研究を行うという方法をとるが、フランス語圏地域以外の人研究者、日本人でフランス語に精通した研究者の協力も得ることになる。翻訳学、哲学(特に日

本哲学)という二つの領域からの研究者と連携し、学会発表参加(平成23年)、ワークショップ開催(平成23・24年)、シンポジウム開催(平成25年)の形で3年計画の研究を段階的に進めてゆく。また、研究代表者個人の研究や基礎研究作業としては、西田哲学の翻訳学的分析を、国内の関連する学会・学術組織で発表し、また論文として出版するという計画がある。

4. 研究成果

(1) 日本哲学のフランス/フランス語圏への紹介

研究代表者個人として、西田幾多郎の後期の哲学(特に行為や身体の問題)、また田辺元の晩年の哲学(芸術論、詩論)に取り組み、フランス語、日本語で研究発表を行った。その一部は論文として出版することができた。

日本哲学についての学会を通じて、フランス、ドイツ、スペイン、日本の哲学者と今後の継続的な共同研究の計画を立てることで合意した(フランス、スペインの大学での日本哲学の集中講義やセミナー、ドイツでのワークショップ=2015年11月に実施、パリでの定期的な日本哲学研究会=すでに実現)。

(2) 日本哲学の翻訳学的研究

国際ワークショップ「東アジアにおける翻訳の歴史」(フランス語)を企画し、東京で開催した。参加者は、カナダ、韓国、台湾、ドイツ、日本の翻訳学研究者、および哲学者であった。東アジアの言語とヨーロッパの言語の間の様々な翻訳の問題について検討することができた。

World Congress of Philosophy(世界哲学会、アテネで開催)で、日本哲学と翻訳の研究をテーマとするラウンド・テーブルを企画し、スペイン、日本の日本哲学を専門とする研究者と共に発表した。哲学における言語と翻訳の問題の重要性について議論することができた。

研究代表者は、個人的に、京都学派の哲学や西周の思想に見られる、翻訳と言語の問題を掘り下げ、学会等で発表し、その一部は論文として出版することができた(日本語、英語)。

本研究の課題の一つである「翻訳哲学」の研究に関心を抱いた、英米哲学および教育哲学を専門とする研究者から、共同研究の提案を受けた。この研究者を中心とする研究グループと共に、研究代表者は、京都、ロンドン、イタリアで開催された会合に出席し、研究発表を行った。京都学派に見られる翻訳の問題を紹介し、翻訳の創造性や翻訳不可能性の問題等について彼らと議論することができた。

(3) フランス語圏に向けての出版準備

上述の(2)日本哲学の翻訳学的研究- および の参加者の発表原稿をもとに、これを加筆・修正してもらい、フランス語と英語による 図書 *Philosopher la traduction/Philosophizing translation* の編集を進めた。本科研費終了年度の翌年である2015 年度内に南山宗教文化研究所から出版する予定である。内容は、主に日本哲学を題材とし、この紹介という意味をもつが、さらに翻訳と哲学の問題を多方面から検討するというものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

上原麻有子、「ランボーと西田 感覚の触れ合うところ」(巻頭エッセー)『日本の哲学 特集フランス哲学と日本の哲学』第15号、日本哲学史フォーラム編、昭和堂、2014年、3-15、12中1番目。

上原麻有子、「田辺元の象徴と哲学 ヴァレリーの詩学を超えて」『日本の哲学 特集フランス哲学と日本の哲学』第15号、日本哲学史フォーラム編、昭和堂、2014年、81-96、12中6番目。

上原麻有子、(書評) *Frédéric Girard, "Vocabulaire du bouddhisme japonais, Tome I- Tome II (Hautes Études Orientales-Extrême-Orient no.45, Genève: Librairie DROZ, 2008, xiii + 1658pp.)* ”, *Japanese Journal of Religious Studies*, Volume 38-Number I-2011, Spring, Nanzan Institute for Religion & Culture, 査読無, 2011, pp. 228-230, 12中12番目。

[学会発表](計18件)

上原麻有子、「田辺元における象徴詩 無即有、有即無という表現」 “Cross-Cultural Phenomena in the Modern Exchange between East Asian and Western Thought”、2015、1、12、中央研究院中國文哲研究所、台北。

上原麻有子、“Philosophizing the Untranslatability of Poetry”, Round Table: Lost in Translation and Education for Understanding Other Cultures, 14th Biennial Conference, International Network of Philosophers of Education, 2014, 8.20, University of

Calabria, Consenza (Italy).

上原麻有子、“Philosophy of Translation”, The 7th International Colloquium between the Institute of Education London and the Graduate School of Education, Kyoto University, 2014, 3. 26, University of London, Institute of Education, ロンドン。

上原麻有子、「翻訳哲学という考え方：日本哲学を探る新たな方法として」、京都大学・研究大学強化促進事業 SPIRITS(Supporting Program for Interaction-based Initiative Team Studies) 融合研究プロジェクト「翻訳としての哲学」と他文化理解 双方向的国際化に向けた哲学と教育の学際研究、2014、2. 15、京都大学法経東館。

上原麻有子、“Translation As a Creation: In the Case of Nishida Kitaro”, Workshop Opening up tetsugaku: the making of the Journal of Japanese Philosophy, 2014, 1. 10, The University of Tokyo Center for Philosophy, 東京。

上原麻有子、「田辺の芸術哲学と象徴行為 ヴァレリーの詩学を媒介に」、土井道子記念京都哲学基金主催シンポジウム「フランス哲学と日本の哲学」、京都ガーデンパレス、2013、12. 24、京都。

上原麻有子、「Le symbole et la traduction chez Tanabe Hajime à travers sa lecture de Paul Valéry », Colloque philosophique franco-japonais, フランス大学協会主催/同志社大学・京都大学白眉センター共催、2013、12. 14、同志社大学、京都。

上原麻有子、「京都学派の哲学者の言語観」Journées d'étude « Pour une redécouverte de la pensée et de la culture japonaises », ストラスブール大学・京都大学文学研究科共同研究、2013、9. 28, Centre Européen d'Etudes Japonaises d'Alsace, Kientzheim (France) .

上原麻有子、“Different Aspects of Translation: In the Case of Nishida Kitaro and Miki Kiyoshi”, Round Table: “Cross-Currents and Vortexes through Translation: Dialogues between Japanese and Continental Philosophy”, 23rd World Congress of Philosophy, 2013, 8. 8, University of Athens, アテネ。

上原麻有子、「Language, Ways of Thinking, and Logic in Japanese Philosophy”, 23rd World Congress of Philosophy, Round Table: Philosophy in Japan: Present and Future, 日本哲学会パネル, 2013, 8. 5, University of Athens, アテネ.

上原麻有子、「京都学派における翻訳の問題」第七回幕末明治研究会、2013、6.29、京都大学文学部校舎。

上原麻有子、「田辺元の『ヴァレリの芸術哲学』再読 翻訳哲学的に言語化すること」、土井道子京都哲学基金主催シンポジウム「日本語で考える 言葉と日本思想」, 2012, 9.11, 京都ガーデンパレス、京都。

上原麻有子、「Une relecture de l'École de Kyôto sous l'aspect de la philosophie de la traduction», 国際ワークショップ Histoire de la Traduction en Asie de l'Est, 2012, 5.19, 明星大学日野校。

上原麻有子、「近代日本のアカデミーにおける西洋哲学の受容と翻訳の問題」, 『跨文化視野下の東亞哲学』學術検討會、2012, 1.5, 中央研究院中國文哲研究所、台北。

上原麻有子、「The Reception of Western Philosophy by Academia in Modern Japan and the Question of Translation”, Japanese Philosophy As An Academic Discipline, 2011, 12.11, 香港中文大學哲學科、香港。

上原麻有子、「Traduction et lecture de la domication de la philosophie allemande au progrès de la tetsugaku dans l'académisme du Japon modern”, 研究グループによるパネル “Traduction, tradition et modernité en Asie de l'Est / Translation, Tradition and Modernity in Eastern Asia”, XXIVe Congrès de l'Association canadienne de traductologie, 2011, 6.3, University of New Brunswick / St. Thomas University, Fredericton(Canada).

上原麻有子、「La question philosophique sous l'angle de la traduction—la clairvoyance de Nishida Kitarô », Conférence Esthétique et philosophie de la traduction, Institut d'études de traduction et de rhétorique de l'Université Korea, 2011, 5.14, 高麗大学校, ソウル。

上原麻有子、「La philosophie de la traduction et la genèse de la philosophie japonaise : une lecture de Ladmiral », Conférence Internationale Traduction et Philosophie : pour la philosophie de la traduction, 2011, 5.14, 韓國外國語大學校ソウル。

〔図書〕(計3件)

上原麻有子、法政大学出版局、(共著)「西周の哲学 翻訳的探究を経て新たな知の創造へ」『思想間の対話 東アジアにおける哲学の受容と展開』(藤田正勝編)、153-172(370)、2015年。

上原麻有子、勉誠出版、(共著)「翻訳から見る昭和の哲学 京都学派のエクリチュール」『アジア・ディアスポラと植民地近代 歴史・文学・思想を架橋する』(緒形康編)、2013年、331(139-168)。

上原麻有子、Presses Universitaires du Septentrion (Villeneuve d'Ascq, France), « Interpréter et traduire : l'invention d'une langue de la philosophie dans le Japon moderne », *La traduction : philosophie et tradition*, Christian Berner & Tatiana Milliaressi (dir.), 2011, 310(299-310)。

〔産業財産権〕
出願状況(計 件) 該当なし

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件) 該当なし

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

・京都大学日本哲学史専修ホームページ

http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/japanese_philosophy/jp-top_page/
・京都大学教育研究活動データベース
<https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/cR8bl>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

上原 麻有子 (UEHARA, Mayuko)
京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40465373

(2)研究分担者 該当なし ()

研究者番号：

(3)連携研究者 該当なし ()

研究者番号：